

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 2022年 3月 4日

事業所名：GreenWood

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	指定基準を満たし、活動のスペースを確保できている。人が密集しないように活動に応じて広場や庭などを使うことができている。	「はい」が100%の回答でした。	引き続き安全に生活できるように現状を維持していく。
	2 職員の適切な配置	有資格者の指定基準は満たしている。子どもの特性や活動内容に合わせて職員を配置している。	「はい」が93% 「わからない」が7%の回答でした。	利用者の人数や特性に合わせた、職員の人員配置を継続して行っていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	階段等段差があり、バリアフリーは整っていない。利用者に合わせて使いやすい動線を考え、棚や機の配置を変えている。ホワイトボードや写真を用意することで見通しが持てるように視覚支援を行っている。日々の目視や月1回の安全点検で破損個所がないかを確認し、破損していればすぐに修理して安全に過ごせるようにしている。	「はい」が86% 「いいえ」が7% 「わからない」が7%の回答でした。	引き続き整理整頓を心がけて、利用者に合わせた環境を整えていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日活動前後に掃除をしている。感染症対策として消毒や換気をこまめに行うこと、食事支援の際は手袋を付けて配膳し、手や機の消毒を行うこと、座る位置も密にならないように間隔を空けて座るようにするなど安全に配慮している。活動後は共有スペースや使用した教材などを消毒している。季節に合わせて室温・湿度を設定し、心地よい生活空間を確保するように努めている。	「はい」93% 「わからない」が7%の回答でした。	コロナが感染拡大しているので消毒、換気などの感染症対策を引き続き行い、清潔で安全な生活空間を作っていく。制作した物などで机・棚の上が乱雑にならないように片付ける場所を明確にして、利用者も職員も整理しやすい環境作りをしていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	月二回のミーティングで活動の振り返りや次回の活動予定の確認を共有している。また事業所内研修で事業所目標・個人目標を立てることで、より良い支援に繋がられるようにしている。	/	継続してミーティング等で目標設定と振り返りを行っていく。また事業所目標・個人目標を張り出し、個人が意識できるようにしていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	コロナ禍の為、外部連携が難しく第三者評価は受けてはいないが、他事業所との情報交換を行い、業務の質の向上を目指している。	/	コロナ禍の為、第三者評価行ってはいない。しかし、今後は第三者評価を行っていきたいと考えている。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	定期的に事業所内研修を行い、他事業所への見学、外部のオンライン研修に参加している。研修情報は職員全体に回覧し、全体参加が難しい場合は個人で参加して報告することで、内容を共有し、職員の質の向上に繋がっている。		今後もより良い支援ができるように、継続して研修機会の確保、参加を行っていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	面談の時間を十分に確保し、話を聴くことを大切にしている。子どもの様子や家庭の背景からニーズを汲み取るようにし、面談後は職員で会議を行い、様々な視点から考えて、支援計画を作成している。	「はい」が100%の回答でした。	相談支援事業所や他施設からも情報交換を行い、支援計画に反映させていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもの特性・課題に合わせた長期、短期目標を設定し、目標に沿った集団・個人活動が組み込まれた計画書を作成している。	「はい」が100%の回答でした。	今後も子どもの状況に応じた活動ができるように、話し合いを重ね支援を行えるようにする。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	アセスメント、事業所内支援会議を行い利用者のニーズを明確にし、ニーズに合わせた目標の設定や支援内容を記載している。支援内容は具体的に記載することを心がけている。	「はい」が93% 「わからない」が7%の回答でした。	今後もわかりやすく表記していく。
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画を元にした適切な支援方法について、毎日確認している。	「はい」が100%の回答でした。	子どもの状況や様子に応じた支援を行っていく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	年間計画、月間予定、日案を作成している。職員間で意見を出し合い、個々の利用者及び季節に合わせたプログラムを立案している。月二回あるミーティングの際に活動の振り返りや次月の活動予定を話し合っている。		充実したプログラムを設けれる様に、チーム全体で意見を出し合っていく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	保護者からだけでなく、送迎時に担任の教師から学校の様子や行事について話を聞き、支援に活かしている。急な時間変更についても臨機応変に対応している。長期休みは普段と違う利用時間や持ち物について、確認の手紙を配布するなど細かい支援を行っている。	「はい」が93% 「どちらともいえない」が7%の回答でした。	保護者と情報交換をし、ニーズにあった対応ができていると感じる。今後もきめ細やかな対応ができるようにしていきたい。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	月毎の季節の行事は、個別、集団、室内外など場所や人数が固定化されないように考えている。昨年と同じプログラムでも内容を変更し、プログラムが固定化されない様になっている。子どもたちのニーズも考慮しながら遊びに変化を与えるように工夫して支援を行っている。		プログラムが固定化しないように、季節や子どものニーズに合わせた工夫をしていく。
8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	活動前に、一日の流れや担当などを細かく決めている。また、非常勤職員には前回の様子を伝えて、どの様に関わればいいのか		今後も支援内容、役割分担の確認を毎日行う。今後も職員間での支援、役割分担の確認を徹底し、よりよい支援を行っていきたい。
9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	活動後の個人記録を書く際に、その日の利用者の様子や支援の振り返りについて、エピソードを交えながら気付いた点を報告しあっている。話しきれないことは朝の申し送りや共有ミーティングで情報共有をしている。		今後も利用者や支援について振り返りや情報共有の場を大事にし、利用者も職員も話しやすい風通しの良い職場作りを続けていく。
10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	連絡帳は利用者目線の言葉選びをし、わかりやすく記載するように心がけている。個別記録は正確に書けるように職員間で情報共有を行いながら、支援当日に記録するようにしている。活動後や共有ミーティングで支援の検証を行い、改善に向けて話し合いを重ねて実践に繋げている。		今後も継続して、情報共有を行い正確に記録していく。その日の利用者にあった支援を提供できる様に検証・改善は続けいく。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に一度保護者と面談を行い、支援計画の見直しを行っている。コロナの感染拡大に合わせて電話で様子を伺うなど家庭の状況に合わせて対応することもあった。		今後も保護者と話す機会を大切にし、より良い支援計画を作成していきたい。
1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	担当者会議には必ず参加している。コロナ禍の影響により、会議が実施できない場合は相談支援事業所と電話での情報共有も行っている。		現在、情報共有がしっかりと行えている。今後も継続して情報共有ができるようにしていきたい。
2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当する利用者の受け入れを行っていない。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当する利用者の受け入れを行っていない。		
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	相談支援事業所とはモニタリングを通して情報共有を行っている。現在、保育園・幼稚園とは情報共有はしていない。小学校・特別支援学校と日々の様子について情報交換をしているが、支援内容については十分な情報共有ができていない学校が多い。		今後も相談支援事業所と情報共有を行っていく。また小学校や特別支援学校と支援について情報共有する場があれば参加していきたい。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現在該当する利用者はなし。		
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関との連携は出来ていないが、専門機関(病院主催)のオンライン研修に参加をした。研修情報は職員間で共有している。		今後も機会があれば、積極的に研修に参加していきたい。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	当団体(法人)が主催するキャンプの案内を配布し、障害のない子どもと活動する機会の提供を行っている。放課後クラブや児童館等の交流は行っていない。	「はい」が31% 「どちらともいえない」が19% 「いいえ」が19% 「わからない」が31%の回答でした。	引き続き、野外活動などの情報提供を続けていきたい。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	コロナ禍の為、現在は行っていない。	「はい」が31% 「どちらともいえない」が19% 「いいえ」が19% 「わからない」が31%の回答でした。	今後、検討していきたい。
	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	支援の内容は、面談の時に支援計画書を見ながら説明をしている。利用者負担等は契約の時に説明し、変更があれば手紙と口頭で伝えている。	「はい」が100%の回答でした。	引き続き丁寧に説明をしていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	面談の時に支援計画書を見ながら説明をしている。計画書作成後、保護者に内容を確認してもらい、同意を頂いている。	「はい」が100%の回答でした。	今後も面談の際に、丁寧に説明していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	保護者研修会、ペアレント・トレーニング等の機会は提供できていない。日々の相談については電話や送迎の際に対応している。	「はい」が56% 「どちらともいえない」が7% 「いいえ」が12% 「わからない」が25%の回答でした。	保護者研修会等、保護者支援が実施できるように、支援機会を提供していきたい。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	気になることがあった際は、送迎の時に話を聞く、連絡帳や口頭で様子を伝え共有している。伝え漏れがあっても、その日の内に電話で伝えるようにしている。	「はい」が100%の回答でした。	細かく情報共有はできている。今後も継続して行っていく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	面談や送迎の際に答えられる範囲で行っている。必要あれば職員間でも情報共有している。	「はい」が93% 「わからない」が7%の回答でした。	今後も子育てへの悩み相談があれば、可能な限り対応していく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現在は行っていない	「はい」が23% 「どちらともいえない」が31% 「いいえ」が23% 「わからない」が23%の回答でした。	今後、検討していきたい。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情対応マニュアルを作成している。契約書に記載し、保護者には契約時に説明をしている。苦情があった時は職員で話し合い、記録を残し、迅速に対応を行う体制はできている。	「はい」が81% 「わからない」が19%の回答でした。	今後も現状の方針で対応していく。定期的に対応方法を見直すようにする。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	正確な情報伝達の為、重要な書類は口頭の説明を加え手渡しをしている。情報伝達に漏れがない様に、伝達内容をメモにして連絡帳に張る等の配慮も行っている。	「はい」が100%の回答でした。	今後もメール等を利用してより意思疎通しやすい方法を検討していく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	年間行事予定は配布していないが、月毎の行事・活動予定の手紙は配布している。一か月毎にブログで活動の様子をHPにあげているが、更新ごとの声掛けは出来ていない。	「はい」が62% 「どちらともいえない」が16% 「わからない」が16%の回答でした。	今後メール等でブログの更新を伝えると共に活動・行事についてもわかりやすく発信していきたい。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	不要な個人情報に関する書類はシュレッターにかけ、他の書類は鍵付きの棚に閉まり、必要な時に取り出している。ブログの写真は、保護者に承諾を得て使用している。	「はい」が88% 「わからない」が12%回答でした。	今後も個人情報の取り扱いについては管理を徹底する。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルは、全職員が閲覧できる状態にしている。案内や改訂がある時は職員間で回覧し、施設内に掲示しているものは最新にしている。また、保護者には契約時に説明している。	「はい」が93% 「わからない」が7%の回答でした。	定期的に職員が目を通す機会を持てる様にする。また室内に分かりやすい様に掲示し、緊急時に対応しやすいように周知していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	火災と地震を想定した避難訓練を年に二回実施している。緊急時の対応を確認している。	「はい」が93% 「わからない」が7%の回答でした。	実際の引き渡し場所(病院)に利用者で行き、フロアのスペースや公衆電話などの場所を確認する。避難訓練の様子については口頭、連絡帳やブログなどで発信していく。
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	外部のオンライン研修に参加し、職員間で情報共有している。内部でも虐待研修を行い、意見交換や対応について協議している。		今後も引き続き内部・外部での研修に参加して、虐待を防止するための知識・技能を高めていく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現状身体拘束を実施したことはない。身体拘束のマニュアルは、全職員が閲覧できる状態にしている。契約書に記載し、保護者には契約時に説明をしている。身体拘束の必要がある時は、保護者と十分な話し合いを行い、同意書を書いてもらうことになっている。職員間でも十分に話し合いを重ね対応していくことになっている。		内外部での研修を通して知見を深めていく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	契約時に、保護者からアレルギー確認アンケートを行い、保護者と相談の上、おやつ提供を行っている。おやつ提供用に、誰が見ても分かるようにアレルギー確認表を作成している。おやつ提供時は、複数人の職員でおやつの確認を行っている。		引き続き、研修等でアレルギーへの知識を深め、対応についても確認しておく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事故が発生した場合は、すぐに職員で情報交換や会議の場を設け対策や今後の事故防止に繋げている。また月に一回安全点検を行い、施設内外で異常がないかを確認し、怪我や事故を未然に防げるようにしている。		今後もヒヤリハットが起こった際は、丁寧に記入し、再発防止に努めていく。また共有MT等の場を使って、職員全体で共有・検討する機会を設ける。
		備考欄・その他	「子どもは通所を楽しみにしていますか」「事業所の支援に満足していますか」の問いに関してはどちらも「はい」が100%の回答でした。	